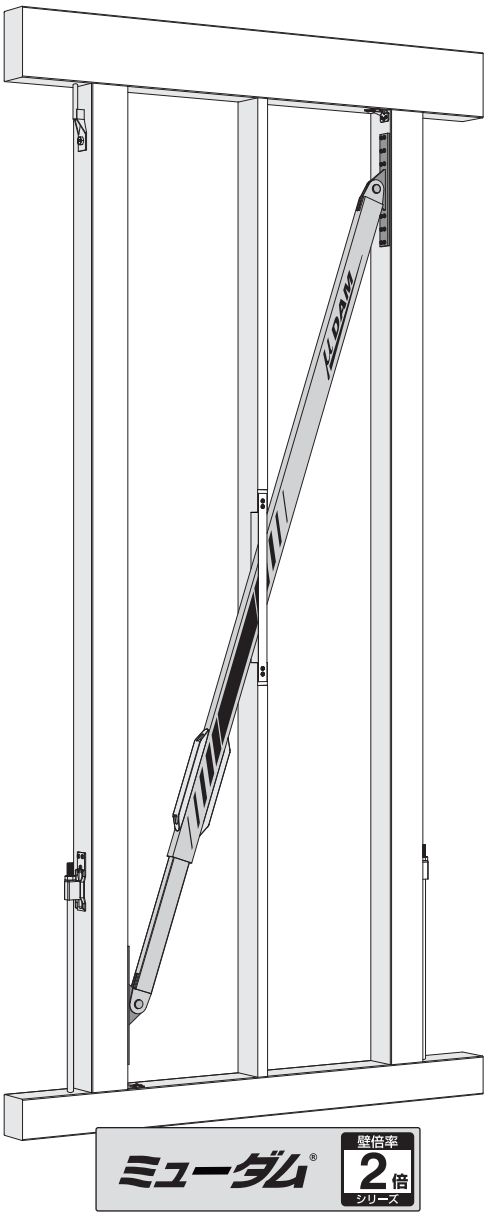
世界初「金属流動」を利用した、次世代型木造住宅用制震ダンパー。

ミューダム®

設計・施工マニュアル Ver.3.5



国土交通大臣壁倍率認定取得済

CONTENTS

1章 ミューダム®の特長

2章 設計要領
- 2-1 総則
- 2-2 設計手順
- 2-3 その他の注意点

3章 施工要領
- 3-1 間柱を後付けする場合
- 3-2 間柱を先付けする場合
- 3-3 コーナー金物の取付けビスについて

4章 製品仕様
- 4-1 ミューダム® セット内容
- 4-2 ミューダム® 部品一覧
- 4-3 ミューダム® 完成見取図

■ ミューダム® 認定書

WALLSTAT® 対応建材 WK19-01

GOOD DESIGN AWARD 2016

特許取得済

⚠ この設計・施工マニュアルには、製品の正しい設置方法や重要な注意事項を示しています。本マニュアルをよくお読みのうえ、製品を正しく安全にお取り扱い下さい。

1章　ミューダム®の特長

製品の機構

ミューダム®は角形鋼管の斜材であり、鋼管とアルミ板の金属流動部位（摩擦部位）を付帯している。内鋼管と外鋼管が刀と鞘のようにスライドできるようになっている。ダンパー部は外鋼管の管壁の内側からアルミリング、外側からアルミプレートで挟み、ボルトで締め付けて金属流動部位（摩擦部位）に一定軸力（面圧）を与えている。（図1）

金属流動とは

金属流動とは、アルミと鋼材を強く押し付けたままスライドさせようとした時、両者の接触面が焼き付き、完全接着され、それでも無理やりスライドさせた時、鋼材より柔らかいアルミが、グニュグニュと動き始める現象のこと。さらにスライドを繰り返しても、アルミは餅のように揉まれて、その摩擦抵抗力を保持する。

複数の大学及び研究機関等との基礎研究の結果、繰り返し摩擦を受けてもその摩擦抵抗力がほとんど低下しない、アルミと鋼材の組み合わせを世界で初めて発見した。
（図2、写真1）

大臣認定の範囲

ミューダム®の大臣認定の適用対象は木造軸組構法（建築基準法施行令第40条～49条（ただし、第48条を除く）に準拠）のみである。枠組壁工法およびその他の工法は認定範囲外であり、耐力壁として扱うことができない。また防水紙その他これに類するもので有効に防水されている部分で使用することも認定の条件である。

地震エネルギー吸収性能

ミューダム®は認定された壁倍率以外にも、通常の木造耐力壁に比べ、優れた地震エネルギー吸収性能を有する。これは実験結果から証明されている。写真2は動的加力実験例（振動台実験）、写真3は静的加力実験例である。図3には振動台実験による応答変位の時刻歴（1995年兵庫県南部地震を再現）を表しており、ミューダム®は木造筋かいより約80%揺れを低減している。これによって地震による建物の揺れが抑えられ、その損傷および家具転倒などの被害を最小限に抑えることができる。図4には国土交通大臣指定性能評価機関試験データを表しており、片筋かい形状にもかかわらず圧縮･引張の対称性能を有し、安定した繰り返し性能を保持している。そのため、ミューダム®の柱頭・柱脚の向きを気にせずに配置することが可能となる。

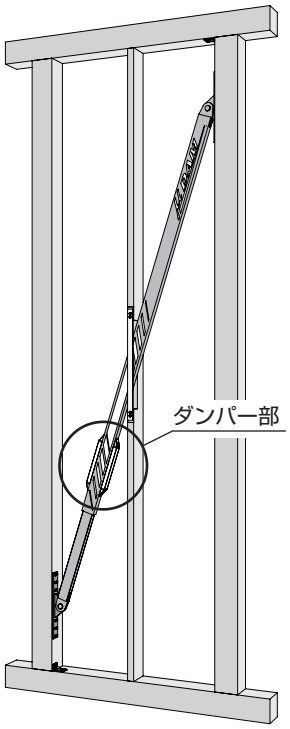


図1　ミューダム®のイメージ

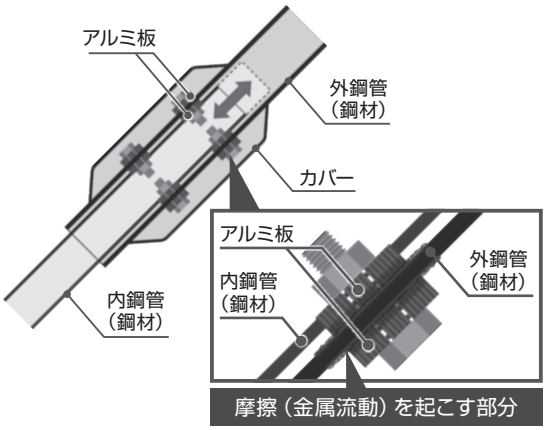


図2　金属流動のイメージ

写真1　金属流動後（参考）

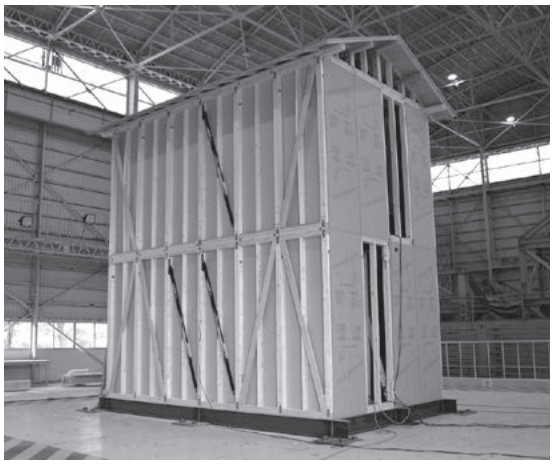


写真2　動的加力実験（振動台実験）

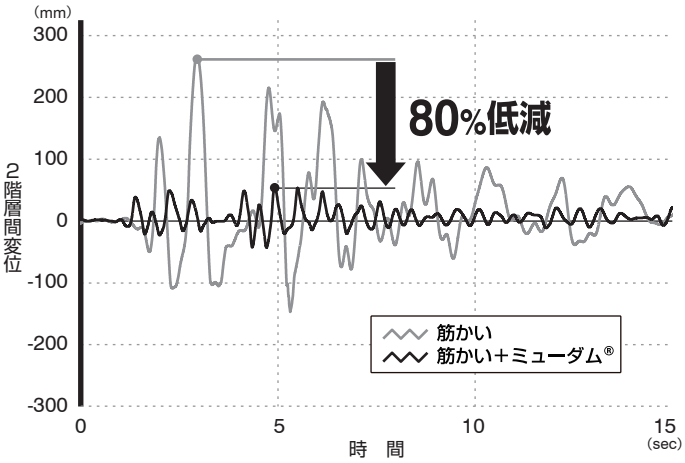


図3　振動台実験による応答変位の時刻歴
（1995年兵庫県南部地震を再現）

写真3　静的加力実験

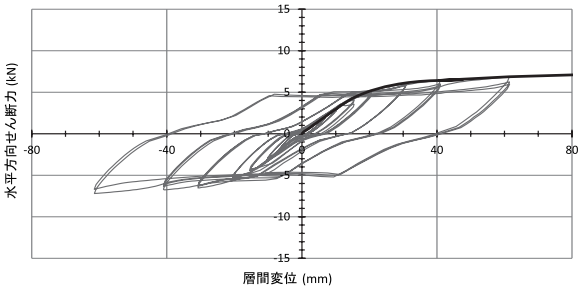


図4　国土交通大臣指定性能評価機関試験データ

ミューダム®の優れた性能と使いやすさをまとめると以下の通りである。

1 幅広い適用範囲

ほとんどの架構で採用できる。（P.5〜P.6参照）

2 軽量で簡単施工

	重さ	ビス総本数	厚さ
ミューダム®	約5〜7kg	46本	30mm

3 住宅のほとんどの壁に使用可能

ミューダム®は厚さ30mmと薄型なので外壁にも間仕切壁にも使用できる。
偏心によるねじれ倒壊を防ぐために外壁にバランスよく設置することを推奨する。

4 揺れ幅を最大80%低減

兵庫県南部地震（1995年）を再現した振動台実験では、従来の片筋かいをミューダム®に入れ替えると、揺れ幅が最大80%低減された。

5 繰り返しの地震に強い

兵庫県南部地震（1995年）を再現した地震波を48回繰り返した振動台実験でも、初期とほとんど変わらない安定した性能を発揮した。

6 温度や速度に依存せず安定した性能

夏冬の温度変化や揺れの速度変化に関係なく、片筋かい形状にもかかわらず圧縮・引張の対称性を有し、安定した繰り返し性能が発揮できる。また、施工時に柱頭・柱脚の向きを考慮する必要はなく、ミューダム®は引抜き金物の選定・配置位置を考慮すれば入隅部や連続配置も可能である。

7 経年劣化が少なくメンテナンスフリー

ミューダム®は、経年に伴う劣化は限りなく少ない設計となっている。仮にダンパー部に錆が発生した場合でも、実験により制震性能にほとんど影響がないことを確認しており、メンテナンスフリーである。

2章　設計要領

2-1 総則

1

ミューダム®は、建築基準法に基づく壁倍率の大臣認定を取得した木造用耐力壁であり、かつ通常の木造耐力壁に比べて優れた地震エネルギー吸収性能をもつ制震ダンパー壁でもある。

解説

壁量計算による構造安全性確認の場合は、壁の長さに壁倍率を乗じた値を壁量に算入することができる。

ミューダム®を建築基準法施行令第46条第4項表1に上げる軸組または昭和56年建設省告示第1100号に定める軸組と併用する場合は、倍率5を上限としてそれぞれの倍率を加算することができる。

2 ミューダム®を取り付けた軸組の適用範囲は、木造軸組構法であり、大臣認定の範囲を守らなければならない。

解説

ミューダム®は耐力壁として壁倍率の大臣認定を取得している。 その適用範囲は図5および表1～3の通り。

ミューダム®

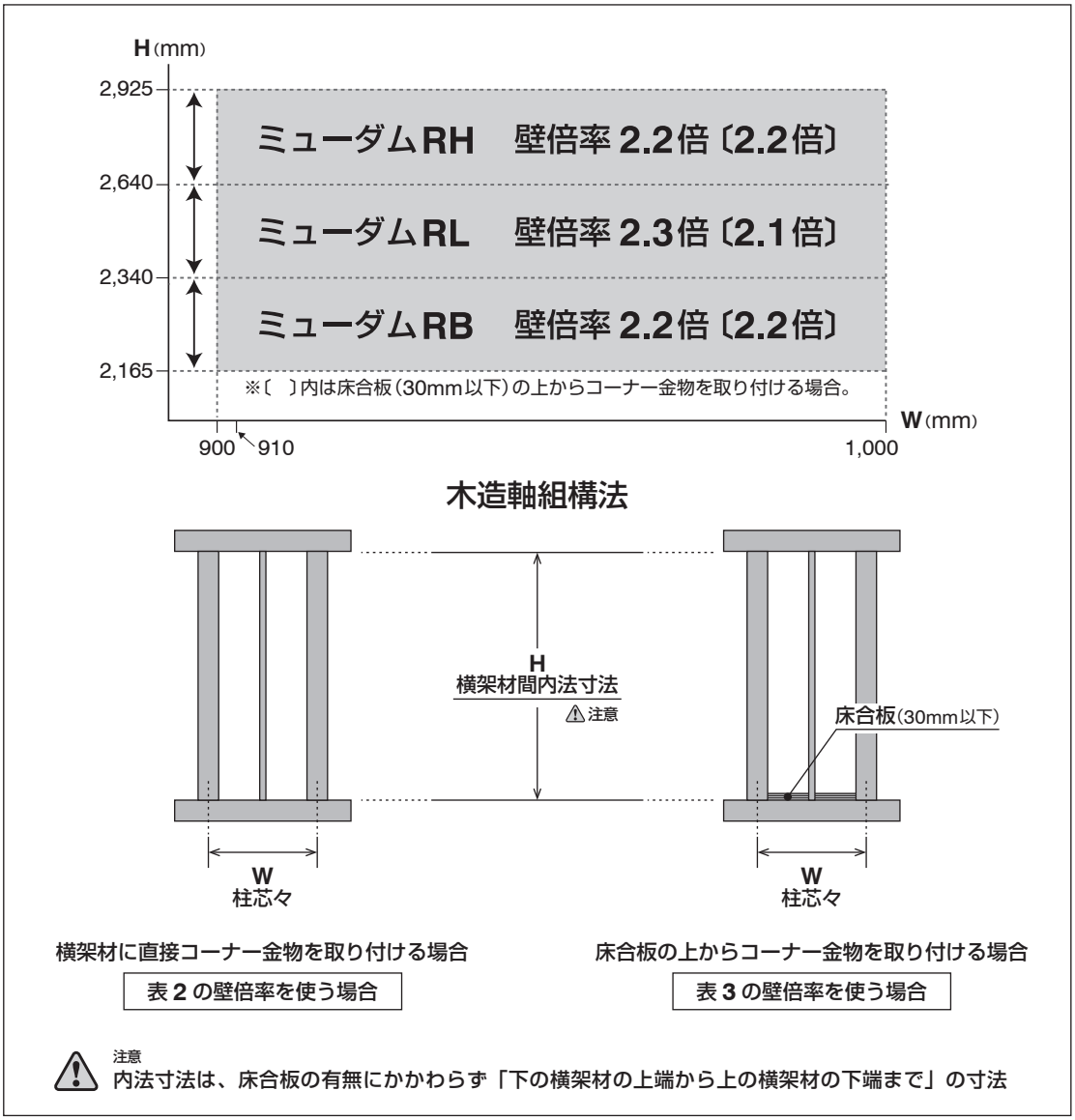


図5 ミューダム®の適用範囲と取得壁倍率

表1　ミューダム®の適用範囲

		ミューダムRB	ミューダムRL	ミューダムRH
仕様	柱間隔（芯々寸法）W	900～1000mm		
	柱と間柱の間隔（芯々寸法）	450～500mm		
	横架材間内法寸法 H	2165～2340mm	2340～2640mm	2640超～2925mm
	柱寸法	105×105mm以上 見付け幅120mmを超える場合は弊社にご相談下さい。		
	土台、梁、胴差、 桁等（横架材）断面寸法	105×105mm以上		
	間柱の切欠き位置	高さ方向の中心から上下±200mm以内（P.7 図6）		

表2　ミューダム®の壁倍率　横架材に直接コーナー金物を取り付ける場合

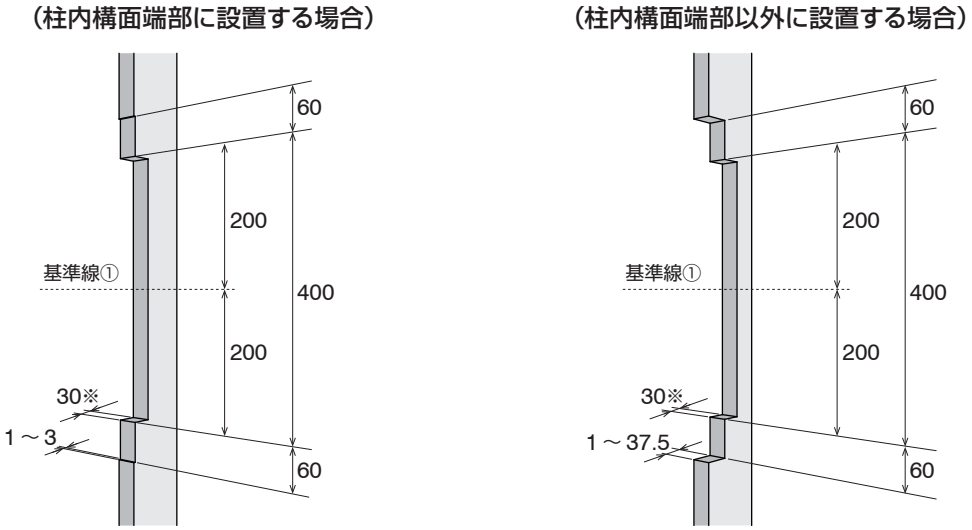
	ミューダムRB	ミューダムRL	ミューダムRH
壁　倍　率	2.2倍	2.3倍	2.2倍
認 定 番 号	FRM-0584-1	FRM-0504-1	FRM-0503-1
取得年月日	2021年6月24日	2021年6月11日	2021年6月11日

表3　ミューダム®の壁倍率　床合板の上からコーナー金物を取り付ける場合

	ミューダムRB	ミューダムRL	ミューダムRH
壁　倍　率	2.2倍	2.1倍	2.2倍
認 定 番 号	FRM-0584-1	FRM-0604-1	FRM-0605-1
取得年月日	2021年6月24日	2021年6月24日	2021年6月24日

ミューダム®

ミューダム®を使用する場合、規定上、間柱を設けなければならない。その際、間柱の切欠き加工が必要となる。加工寸法を図6に示す。



取付時の注意
ミューダム® と間柱、裏当金物に「**すき間ができないように**」注意すること。
※印の寸法が過大にならないように注意すること。

図6　ミューダム®の間柱切欠き寸法（単位：mm）

3

軸組の仕様は、建築基準法施行令第40条～第49条（ただし、48条を除く。）に準拠した木造軸組とする。

解説

ミューダム®は、その適用範囲を満たす場合は、壁量への算入、壁倍率を用いた偏心率の検定、柱頭・柱脚の接合金物の検定などを行った上で適用できる。

4

壁倍率の加算

建築基準法施行令第46条第4項表1に定める軸組、または、昭和56年建設省告示第1100号に定める軸組を併用する場合は、倍率5を限度としてそれぞれの倍率を加算できる。

解説

面材とミューダム®を併用した場合の、壁倍率の加算例を以下に示す。

例1）

面材❶ 壁倍率2.5倍 ＋ ミューダムRL 壁倍率2.3倍

2.5 ＋ 2.3 ＝ 4.8 ＜ 5.0 ➡ 壁倍率 4.8倍

例2）

面材❶ 壁倍率2.5倍 ＋ ミューダムRL 壁倍率2.3倍 ＋ 面材❷ 壁倍率0.9倍

2.5 ＋ 2.3＋ 0.9 ＝ 5.7 ＞ 5.0 ➡ 壁倍率 5.0倍

注意事項

・確認申請後にミューダム®を追加する場合や、筋かいとミューダム®を入れ替える場合は必ず設計者、確認機関に事前に相談して下さい。

・ミューダム®の壁倍率を使わず計算外として設置する場合も、柱の引抜きの担保、偏心率の確認などが必要なため、必ず設計者、確認機関に事前に相談して下さい。

・確認機関よりその他の指摘が入る場合がありますので、設計者、確認機関に事前に相談して下さい。

・省令準耐火へ対応する必要がある場合は、住宅金融支援機構「【 フラット35 】対応木造住宅工事仕様書」に従って下さい。

・耐震補強工法の技術評価（一般財団法人日本建築防災協会）を取得しています。耐震補強を伴うリフォーム工事で本評価書が必要な場合、弊社にお問い合わせ下さい。

2-2 設計手順

ミューダム®は耐力壁として、どの階にも使用することができ、複数の層に同時に使用することができる。ただし、一般の建築物には上層に比べ下層にかかる地震力が大きく、層間変位も大きいため、優先的に下の層から配置するのが効果的である。

1階だけに制震ダンパーを設置するとそこだけでエネルギー吸収できずに2〜3階へ地震エネルギーは移行する。全ての階にミューダム®を設置して、どのような地震が来ても安全を担保できる設計を推奨する。

ミューダム®を平面的にバランスよく配置するために、四分割法または偏心率計算により検定し、建築物の中心からの距離の合計がxy方向とも出来るだけ等しい距離になるよう考慮する。

設計は以下の ステップ1 → ステップ2 の順に進める。

ステップ1

ミューダム®の配置
ミューダム®のみを配置する。
このときx方向・y方向ともに同数となるように配置することが望ましい。

〈外周部にミューダム®の配置が可能の場合〉

■ミューダム®を4本以上配置する場合

ミューダム®のみを配置し、「偏心率が0.3以下になることを確認」または「四分割法で壁率比が0.5以上であることを確認」し、平面的なねじれが少ないことを確認する。x方向・y方向ともに側端部分に配置することが望ましい。(図7)

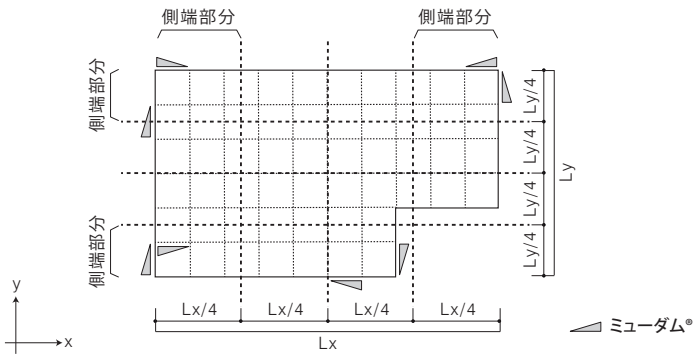


図7 ミューダム®のみの配置例(ミューダム®を4本以上配置する場合)

〈外周部にミューダム®の配置が出来ない場合〉

■ミューダム®を間仕切壁にのみ配置する場合

x方向、y方向の設置本数を同数とし、できる限りバランス良く配置する。(図8)

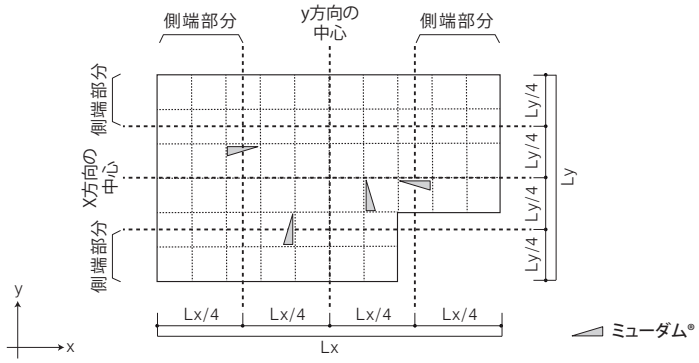


図8 ミューダム®のみの配置例(間仕切壁にミューダム®を配置する場合)

ステップ2

ミューダム®以外の耐力壁の配置

必要壁量を満たすように、ミューダム®以外の壁を配置し、偏心率（0.3以下）又は四分割法で壁率比（0.5以上）の確認を行う。

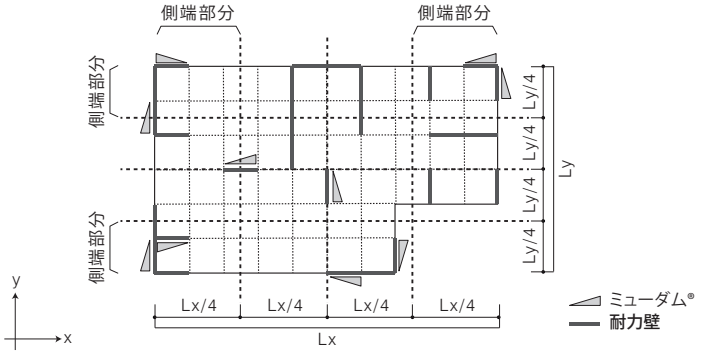


図9 ミューダム®に耐力壁を追加した場合の配置例

※ミューダム®の連続配置、出隅部の配置の際は、引抜き金物の設置個所に注意すること。

2-3 その他の注意点

1 柱に生じる引き抜き力の算定（N値計算など）
ミューダム®は、引張・圧縮の両性能を有しているので、設計上、面材（合板等）と同様の壁倍率認定の扱いとなる。一般の耐力壁と同様に（ミューダム®が取り付く左右の柱の柱頭・柱脚部について）検討を行う。

2 付属のコーナー金物は、柱ほぞのせん断補強用のため、柱に生じる引抜き用の金物は別途取り付ける。

3 ミューダム®は、引抜き金物と付属のコーナー金物、接合金物の取り合いの確認をする。特に、出隅、入隅部で連続配置する場合、注意を要する。（**図10、図11**）

4 ミューダム®は直接柱へ取り付けること。特に真壁に使用する場合は、接合金物を受け材に取り付けてはいけない。

5 設備配管に絡むスリーブ穴開口位置は、ミューダム®の設置位置に干渉しないようにあらかじめ計画すること。

6 ミューダム®を取り付ける構面内では、原則、横架材に継手を設けない。

7 ミューダム®を取り付ける構面に直交する横架材のせいは、原則、ミューダム®に取り付ける構面の横架材のせい又は枕梁と合わせる。ただし、横架材のせいを合わせられない場合は、弊社までお問い合わせ下さい。

8 金物工法の場合でミューダム®の取り付けが困難となる場合は、事前に弊社へご相談下さい。

9 ミューダム®の連続配置
ミューダム®は平行連続配置ができる。平行連続配置もしくは出隅・入隅のコーナー部に配置する場合は、金物取付ビスが干渉しないよう同一方向に配置する。
（**図10、図11**）

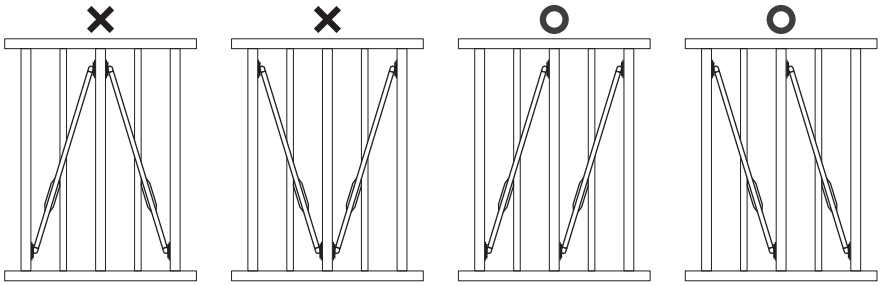


図10　ミューダム® 連続配置の場合

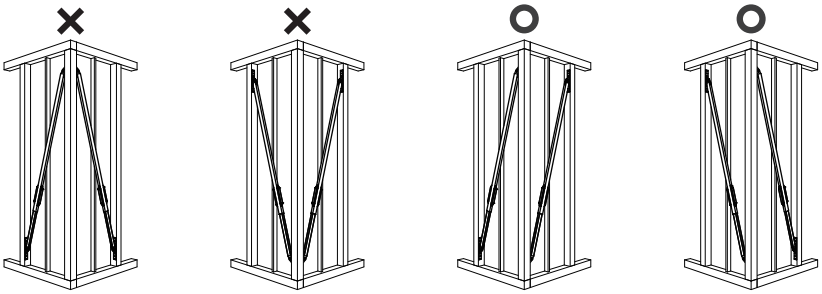


図11　ミューダム® コーナー部に配置する場合

⑩離隔寸法（基準線①～基準線②の寸法）

ミューダム®の離隔寸法aは**表4**に示す値を用いる。

表4　基準線①～②の離隔寸法(単位：㎜)

柱芯間隔W(芯々)	柱幅hc(両柱共)		離隔寸法a(RB)	離隔寸法a(RL)	離隔寸法a(RH)
900	105	105	669	823	971
	105	120	671	824	972
	120	120	673	826	973
910	105	105	667	821	969
	105	120	669	822	971
	120	120	670	824	972
1000	105	105	646	803	954
	105	120	648	805	955
	120	120	649	806	956

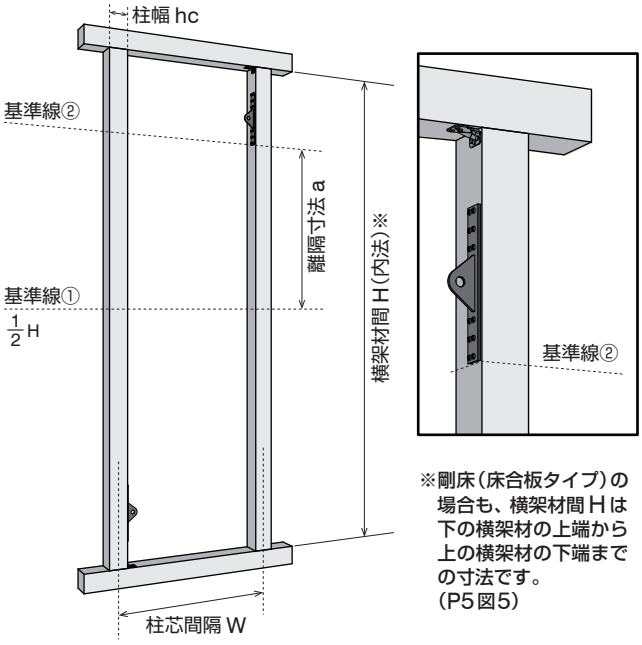
離隔寸法算出式

RB　$a=\dfrac{\sqrt{1795^2-(W-hc-76)^2}}{2}-153$

RL　$a=\dfrac{\sqrt{2080^2-(W-hc-76)^2}}{2}-153$

RH　$a=\dfrac{\sqrt{2360^2-(W-hc-76)^2}}{2}-153$

※aは小数点以下を四捨五入し整数値にする。



※剛床(床合板タイプ)の場合も、横架材間Hは下の横架材の上端から上の横架材の下端までの寸法です。(P5図5)

図12　離隔寸法解説図

計算例

【RHタイプ】

柱芯間隔W：910mm、柱幅hc：105mmの場合

$a=\dfrac{\sqrt{2360^2-(910-105-76)^2}}{2}-153$

$=969\text{mm}$

【RHタイプ】両側の柱幅が異なる場合

柱芯間隔W：910mm、
左柱 ${}^{左}hc$：105mm、右柱 ${}^{右}hc$：120mmの場合

$hc=\dfrac{{}^{左}hc+{}^{右}hc}{2}=\dfrac{105+120}{2}=112.5\text{mm}$

$a=\dfrac{\sqrt{2360^2-(910-112.5-76)^2}}{2}-153$

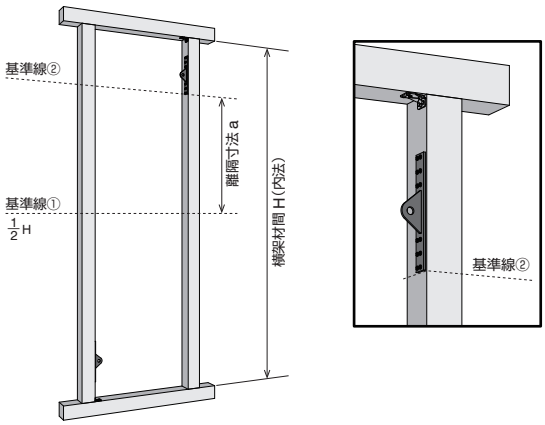
$=971\text{mm}$

⑪その他

地震時には、その地震エネルギーを吸収するための音が発生する場合がありますが、制震性能には支障ありません。

3章 施工要領

3-1 間柱を後付けする場合



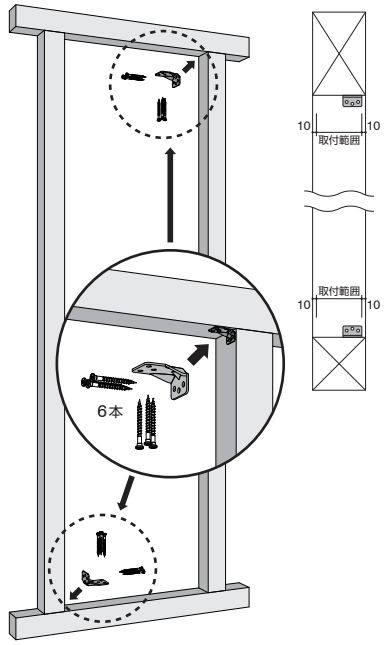
離隔寸法表

単位：mm

柱芯間隔W(芯々)	柱幅hc(両柱共)		離隔寸法a(RB)	離隔寸法a(RL)	離隔寸法a(RH)
900	105	105	669	823	971
	105	120	671	824	972
	120	120	673	826	973
910	105	105	667	821	969
	105	120	669	822	971
	120	120	670	824	972
1000	105	105	646	803	954
	105	120	648	805	955
	120	120	649	806	956

1

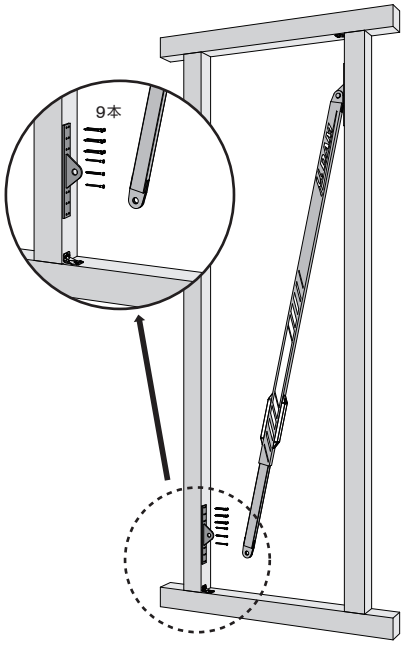
1-1. 横架材間H(内法)の $\frac{1}{2}$Hの高さに基準線①を墨付けする。
1-2. 適合する離隔寸法を表から選び、基準線①から上へ基準線②を墨付けする。



2

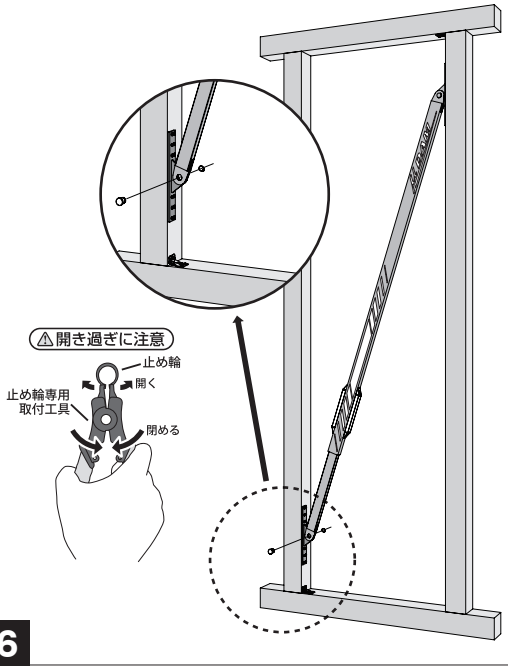
コーナー金物を、ミューダム®の両端角部に奥行き方向の端部から10mm以上内側に各6本のφ5.5専用ビスで固定する。

※注意：コーナー金物は短辺側を柱、長辺側を土台・梁に取り付ける。
(P.17参照)



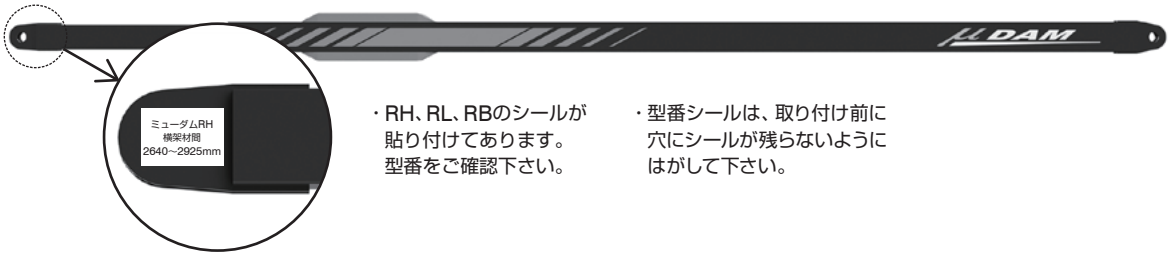
5

仮固定したミューダム®下側のφ20専用ピンを抜き、取付穴の残り9ヶ所をφ6.5専用ビスで固定する。



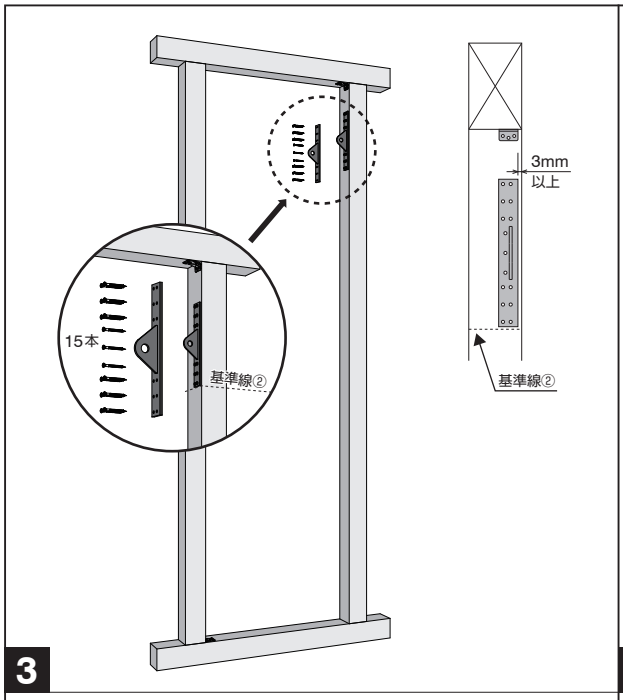
6

ミューダム®下側部と接合金物の穴同士を合わせ、φ20専用ピンを差込み、止め輪専用取付工具で止め輪をしっかり固定する。



・RH、RL、RBのシールが貼り付けてあります。型番をご確認下さい。

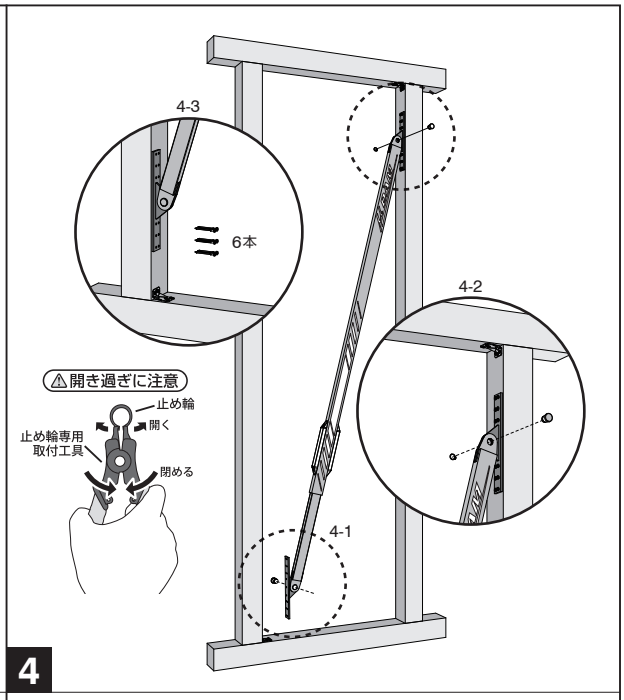
・型番シールは、取り付け前に穴にシールが残らないようにはがして下さい。



3

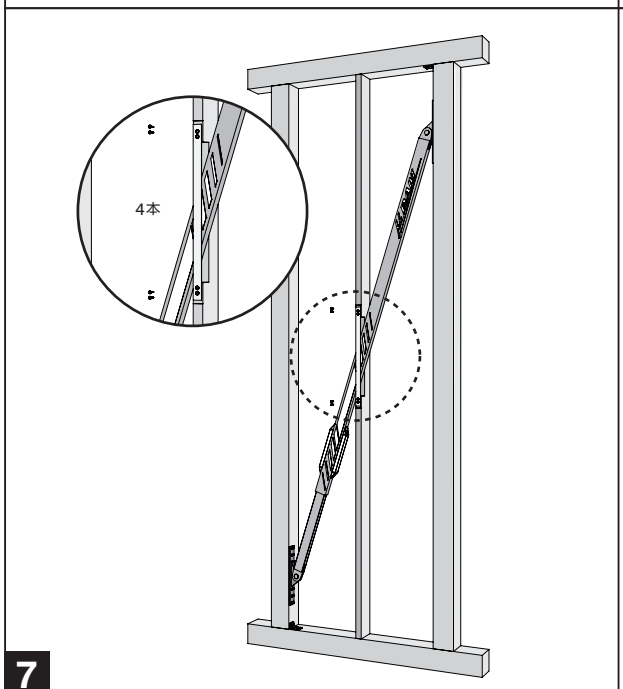
基準線②に接合金物の下端を合わせ、15本のφ6.5専用ビスで固定する。

※注意：接合金物の取付方向に注意すること。



4

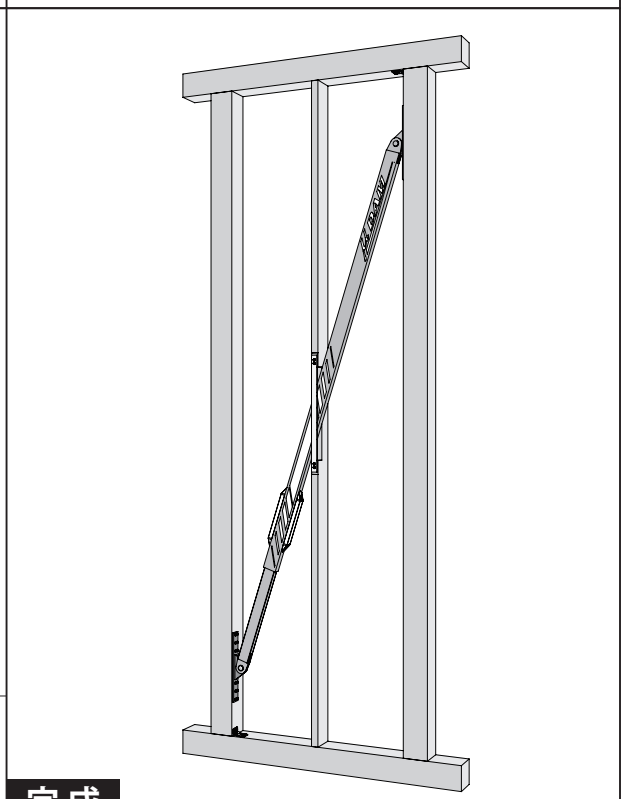
4-1. ミューダム®の下側端部の穴と接合金物の穴を合わせ、φ20専用ピンを背面から差込み、仮固定する。
4-2. ミューダム®の上側端部と**3**で固定した接合金物の穴を合わせ、φ20専用ピンを差込み止め輪専用取付工具で止め輪をしっかり固定する。
4-3. ミューダム®の下側端部の接合金物を柱に当て、取付孔の下側6ヶ所をφ6.5専用ビスで固定する。



7

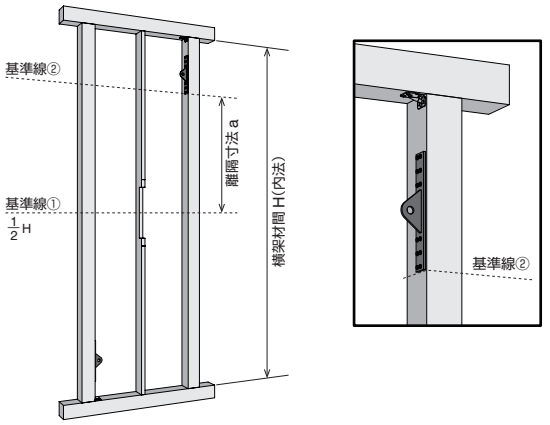
7-1. 間柱を取り付ける。※間柱の切欠き加工はP.7図6参照
7-2. 間柱の切欠き部分に、裏当金物を当てφ3.8専用ビス４本で固定する。

⚠ **取付時の注意**
ミューダム®と間柱、裏当金物に「すき間ができないように」注意すること。



完成

3-2 間柱を先付けする場合



離隔寸法表

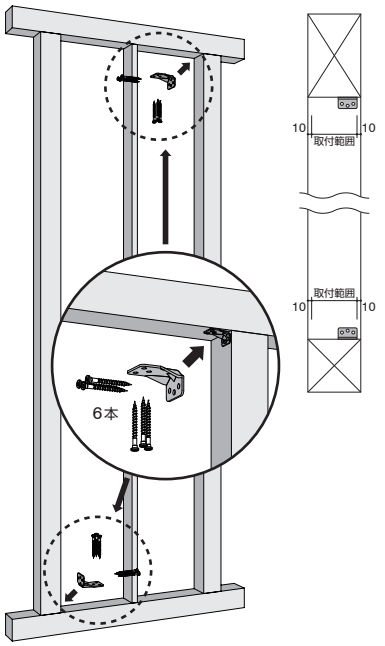
単位：mm

柱芯間隔 W(芯々)	柱幅 hc(両柱共)		離隔寸法 a(RB)	離隔寸法 a(RL)	離隔寸法 a(RH)
900	105	105	669	823	971
	105	120	671	824	972
	120	120	673	826	973
910	105	105	667	821	969
	105	120	669	822	971
	120	120	670	824	972
1000	105	105	646	803	954
	105	120	648	805	955
	120	120	649	806	956

1

1-1. 横架材間H(内法)の$\frac{1}{2}$Hの高さに基準線①を墨付けする。
1-2. 適合する離隔寸法を表から選び、基準線①から上へ基準線②を墨付けする。

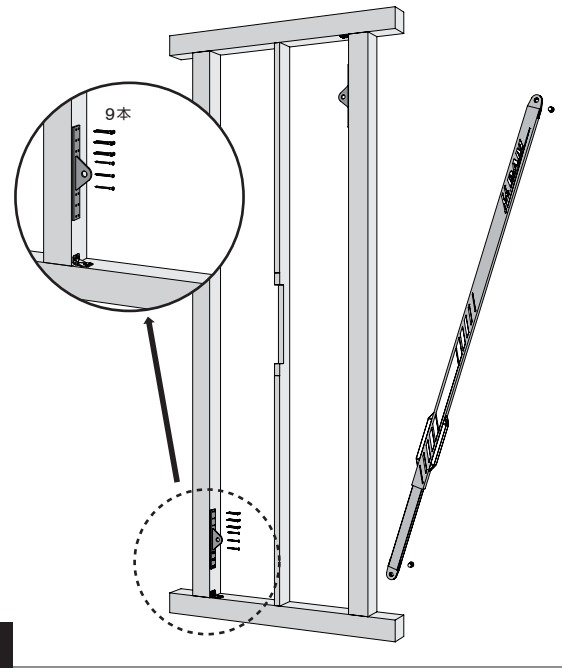
※間柱の切欠き加工はP.7図6参照



2

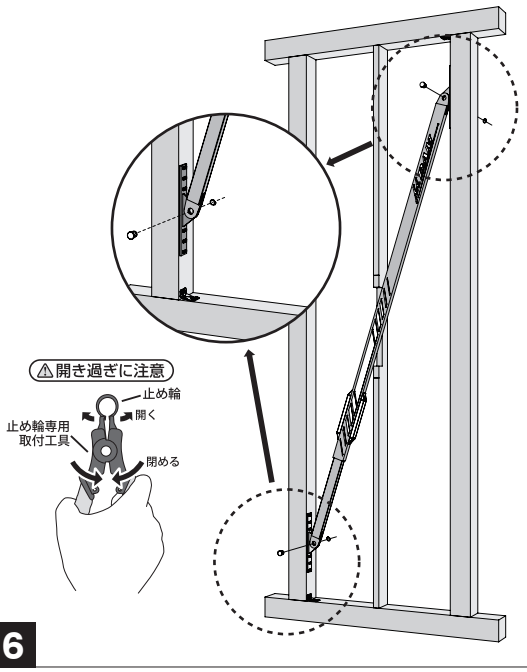
コーナー金物を、ミューダム®の両端角部に、奥行き方向の端部から10mm以上内側に各6本のφ5.5専用ビスで固定する。

※注意：コーナー金物は短辺側を柱、長辺側を土台・梁に取り付ける。
(P.17参照)



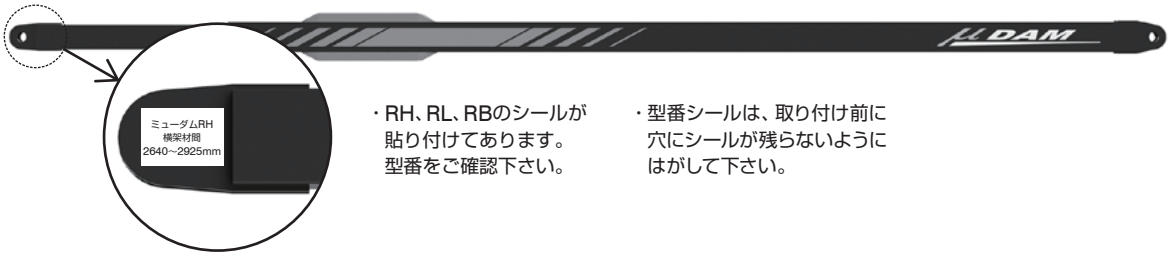
5

5-1. 仮固定した上下の専用φ20ピンを抜き、ミューダム®本体を取り外す。
5-2. 接合金物取付穴の残り9ヶ所をφ6.5専用ビスで固定する。



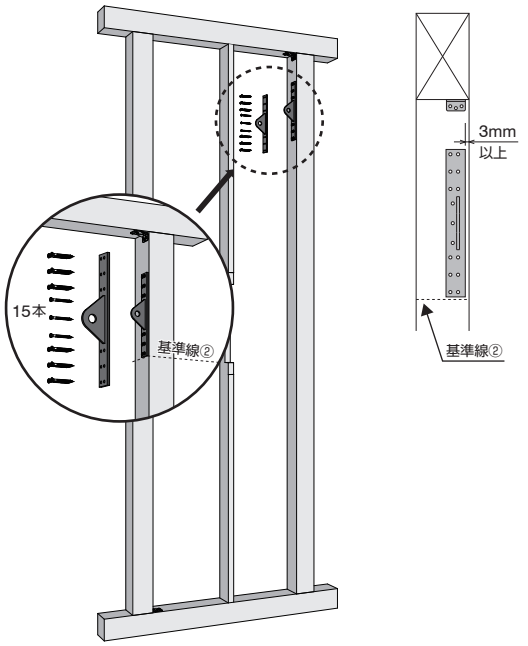
6

ミューダム®両端部と接合金物の穴同士を合わせ、φ20専用ピンを差込み、止め輪専用取付工具で止め輪をしっかり固定する。



・RH、RL、RBのシールが貼り付けてあります。型番をご確認下さい。

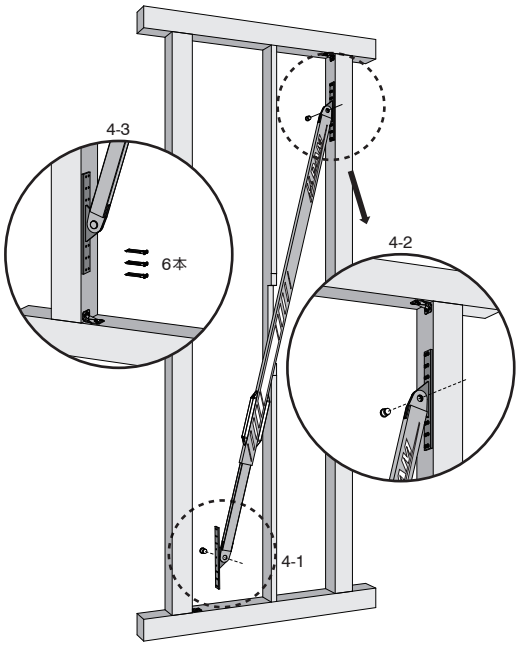
・型番シールは、取り付け前に穴にシールが残らないようにはがして下さい。



3

基準線②に接合金物の下端を合わせ、15本のφ6.5専用ビスで固定する。

※注意：接合金物の取付方向に注意すること。

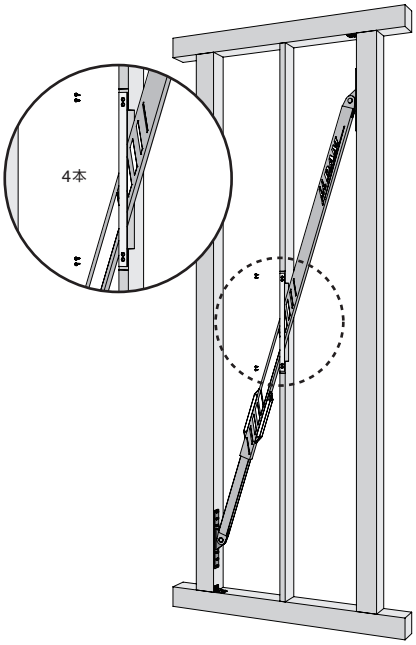


4

4-1. ミューダム®の下側端部の穴と接合金物の穴を合わせ、φ20専用ピンを背面から差込み、仮固定する。

4-2. ミューダム®の上側端部の穴と**3**で固定した接合金物の穴を合わせ、φ20専用ピンを背面から差込み、仮固定する。

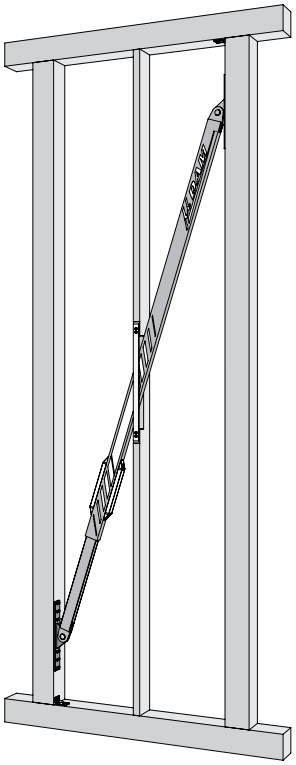
4-3. ミューダム®の下側端部の接合金物を柱に当て、取付穴下部6ヶ所にφ6.5専用ビスで固定する。



7

間柱の切欠き部分に、裏当金物をφ3.8専用ビス4本で固定する。

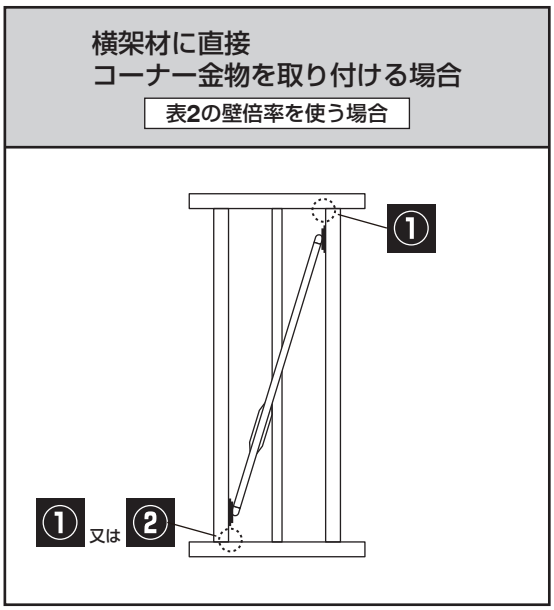
取付時の注意
ミューダム® と間柱、裏当金物に「すき間ができないように」注意すること。



完成

3-4 コーナー金物の取り付けビスについて

コーナー金物を取り付けるためのビスは、
図13又は図14による。



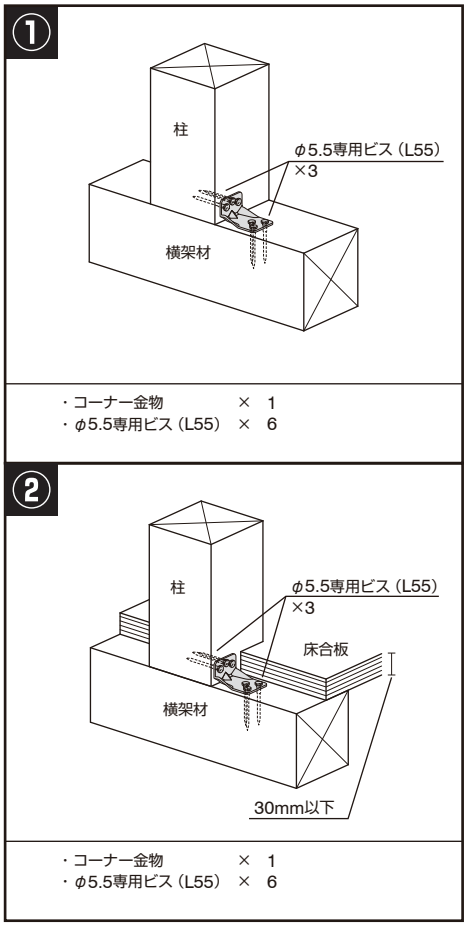
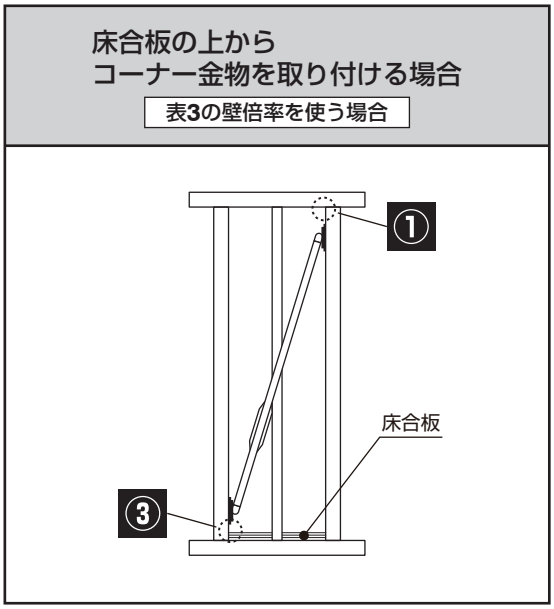


図13　横架材に直接施工



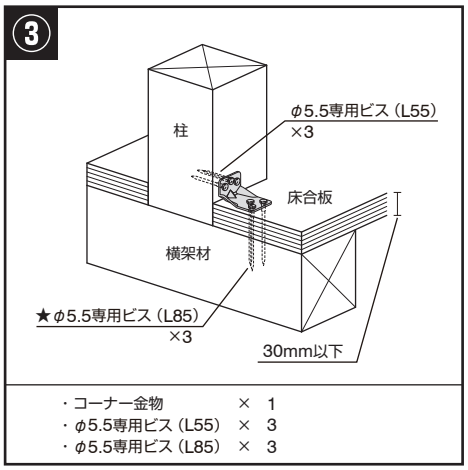


図14　床合板の上から施工

⚠ ご注意ください！
コーナー金物は「短辺側を柱」に「長辺側を土台・梁」に取り付けます。
床合板の上から取付ける際は「床合板対応φ5.5専用ビス（L85）（長いビス）」を使用します。

MEMO

4章　製品仕様

4-1 ミューダム® セット内容

・ミューダム®本体

・接合金物 …… 2個

・裏当金物 …… 1本

ヒンジピン小袋

・φ20 専用ピン …… 2個
・止め輪 …… 2個
・φ3.8 専用ビス …… 4本（裏当金物用）

接合ビス小袋

・φ6.5専用ビス … 31本（30本+予備1本）

コーナー小袋

・コーナー金物 …… 2個
・φ5.5専用ビス（L55）…12本

床合板用ビス小袋

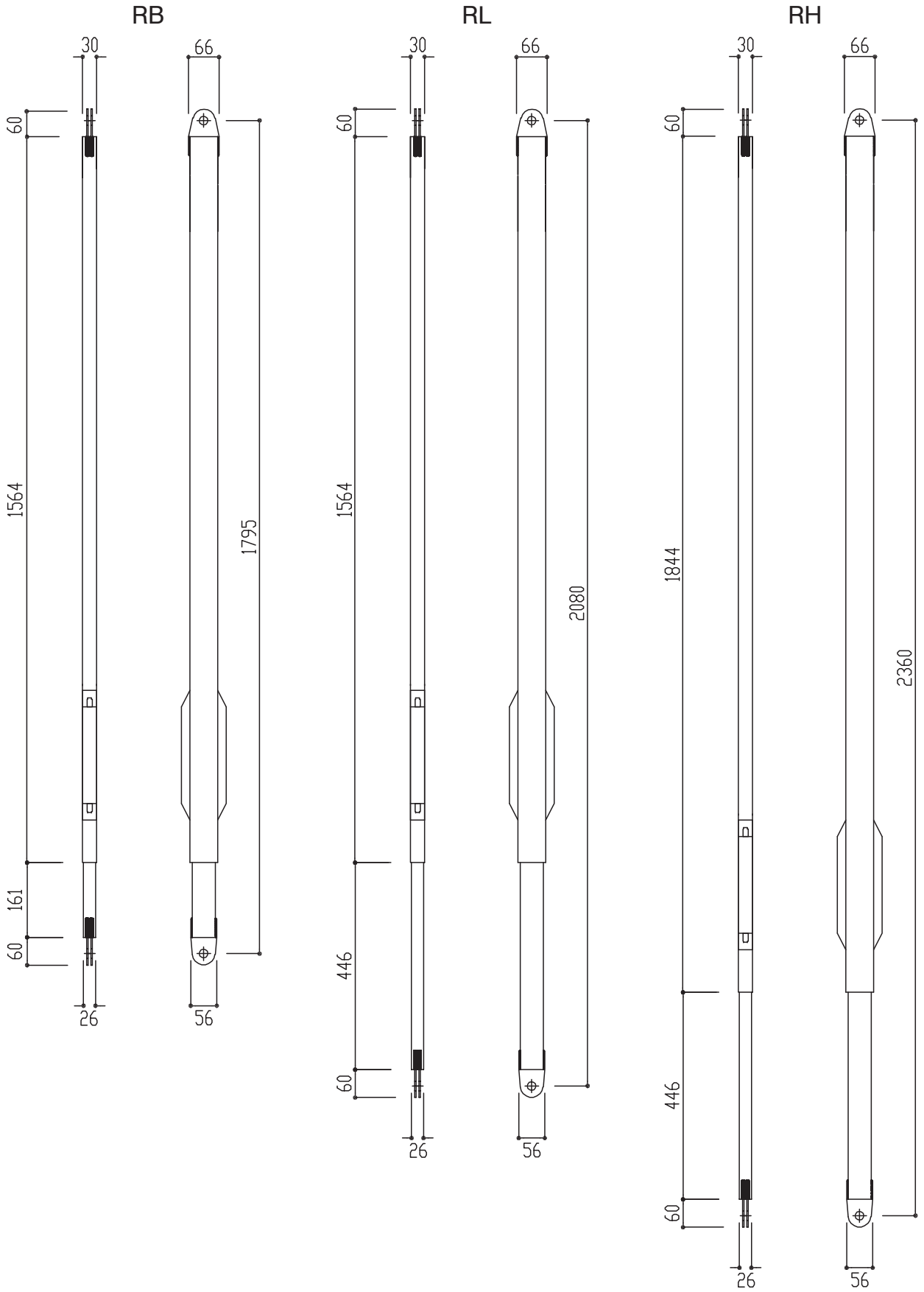
RH、RL、RBのシールが
貼り付けてあります。
型番をご確認下さい。

・止め輪専用取付工具 … 1個 / 棟

床合板対応
・コーナー金物用
φ5.5専用ビス（L85）… 12本（3本×4セット）

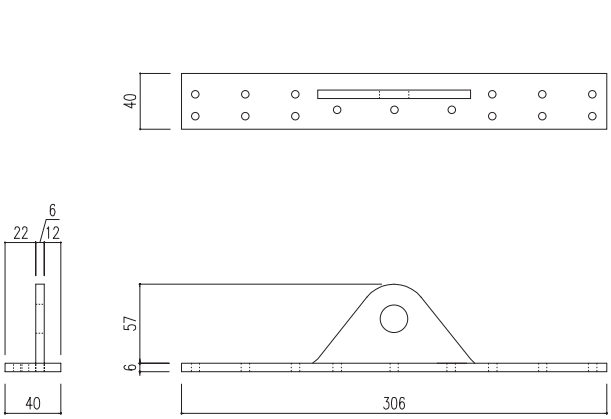
4-2 ミューダム® 部品一覧

《ミューダム®本体》



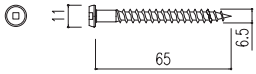
《共通部品》

【接合部】



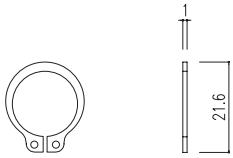
（数量：2個）

接合金物



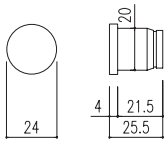
（数量：30本）

φ6.5専用ビス



（数量：2個）

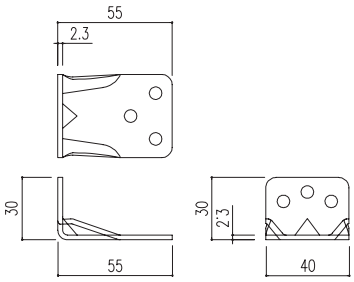
止め輪



（数量：2個）

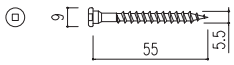
φ20専用ピン

【コーナー部】



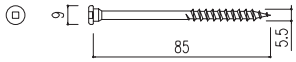
（数量：2個）

コーナー金物



（数量：12個）

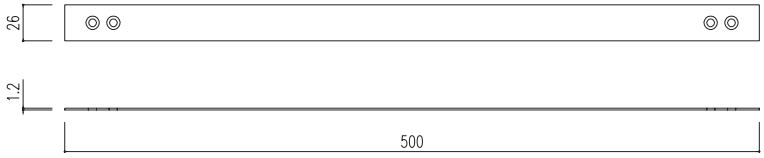
φ5.5専用ビス（L55）



（数量：60個）

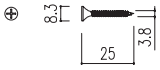
床合板対応φ5.5専用ビス（L85）

【面外拘束部】



（数量：1個）

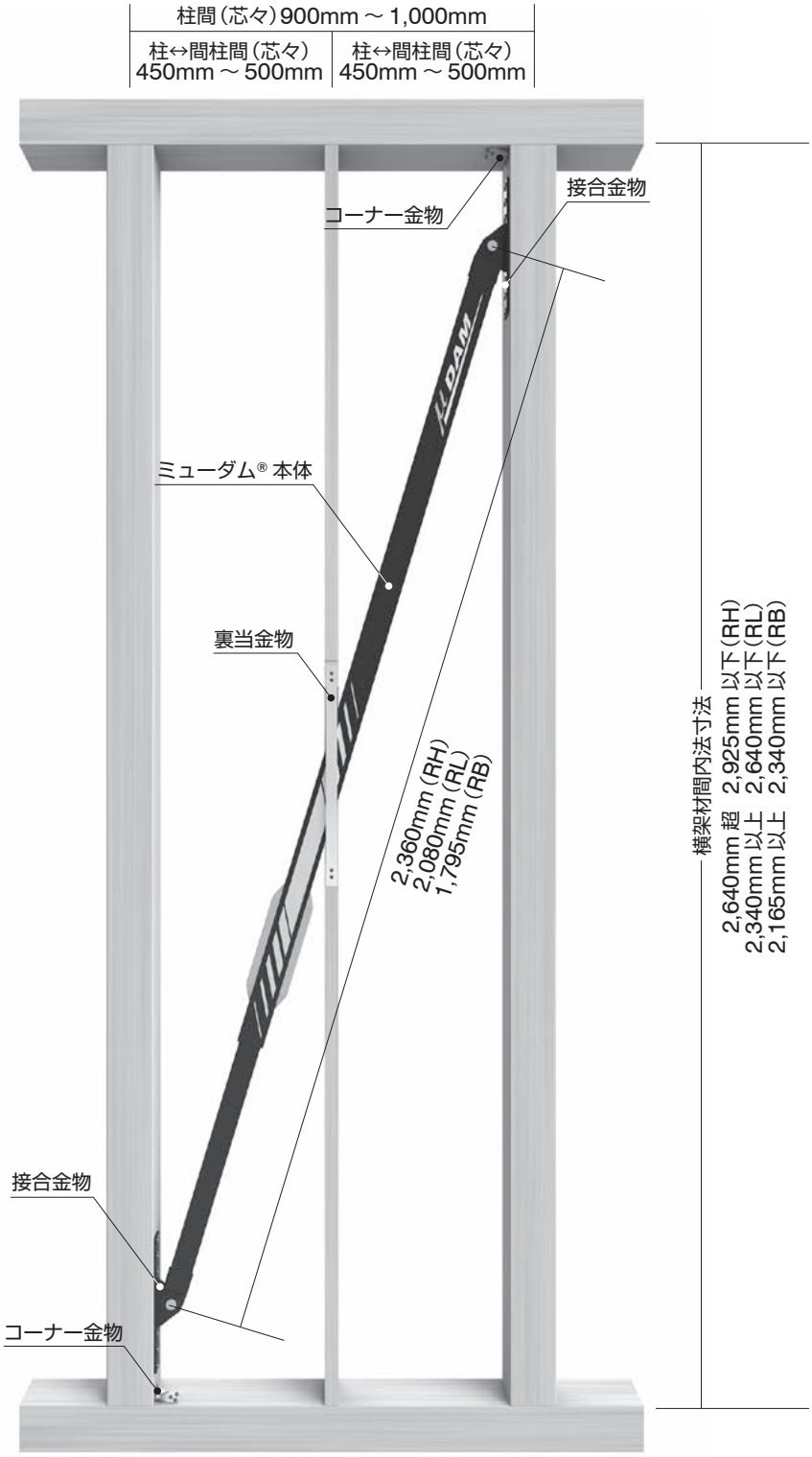
裏当金物



（数量：4本）

φ3.8専用ビス
（裏当金物用）

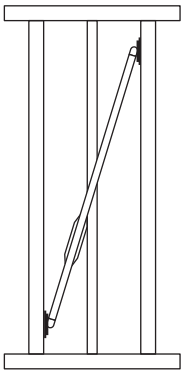
4-3 ミューダム® 完成見取図

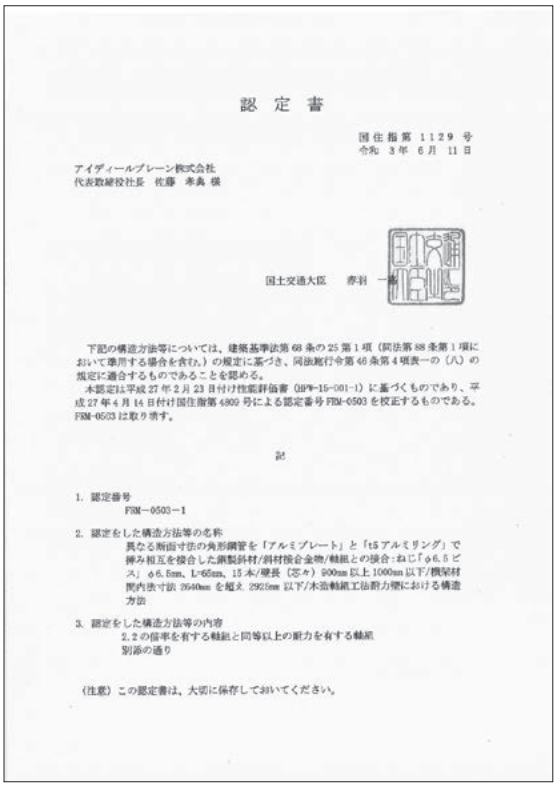


■ミューダム® 認定書

横架材に直接
コーナー金物を取り付ける場合

表2の壁倍率を使う場合





認 定 書

国住指第 1129 号
令和 3年 6月 11日

アイディールブレーン株式会社
代表取締役社長 佐藤 孝典 様

国土交通大臣 赤羽 一嘉

下記の構造方法等については、建築基準法第68条の25第1項（同法第88条第1項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第46条第4項表一の（八）の規定に適合するものであることを認める。
本認定は平成27年2月23日付け性能評価書（BPW-15-001-1）に基づくものであり、平成27年4月14日付け国住指第4809号による認定番号FRM-0503を校正するものである。FRM-0503は取り消す。

記

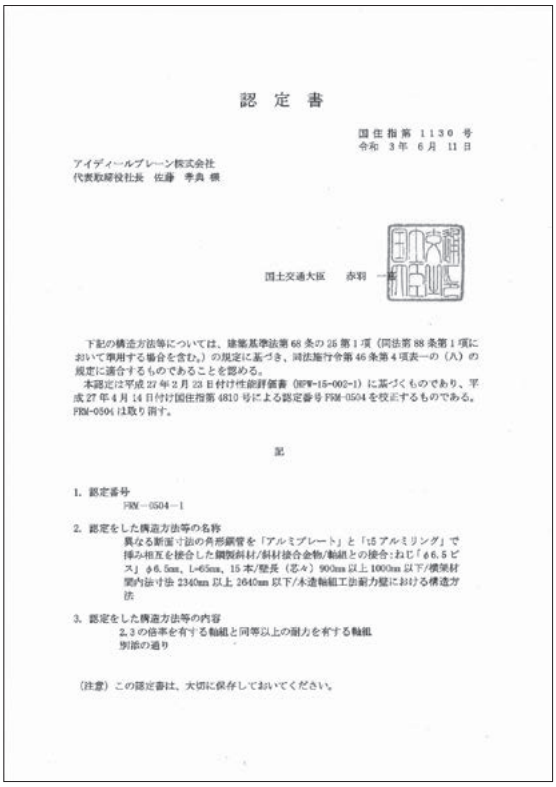
1. 認定番号
FRM－0503－1

2. 認定をした構造方法等の名称
異なる断面寸法の角形鋼管を「アルミプレート」と「t5アルミリング」で挟み相互を接合した鋼製斜材/斜材接合金物/軸組との接合：ねじ「φ6.5ビス」φ6.5mm、L=65mm、15本/壁長（芯々）900mm以上1000mm以下/横架材間内法寸法 2640mm を超え 2955mm 以下/木造軸組工法耐力壁における構造方法

3. 認定をした構造方法等の内容
2.2の倍率を有する軸組と同等以上の耐力を有する軸組
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

ミューダムRH



認 定 書

国住指第 1130 号
令和 3年 6月 11日

アイディールブレーン株式会社
代表取締役社長 佐藤 孝典 様

国土交通大臣 赤羽 一嘉

下記の構造方法等については、建築基準法第68条の25第1項（同法第88条第1項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第46条第4項表一の（八）の規定に適合するものであることを認める。
本認定は平成27年2月23日付け性能評価書（BPW-15-002-1）に基づくものであり、平成27年4月14日付け国住指第4810号による認定番号FRM-0504を校正するものである。FRM-0504は取り消す。

記

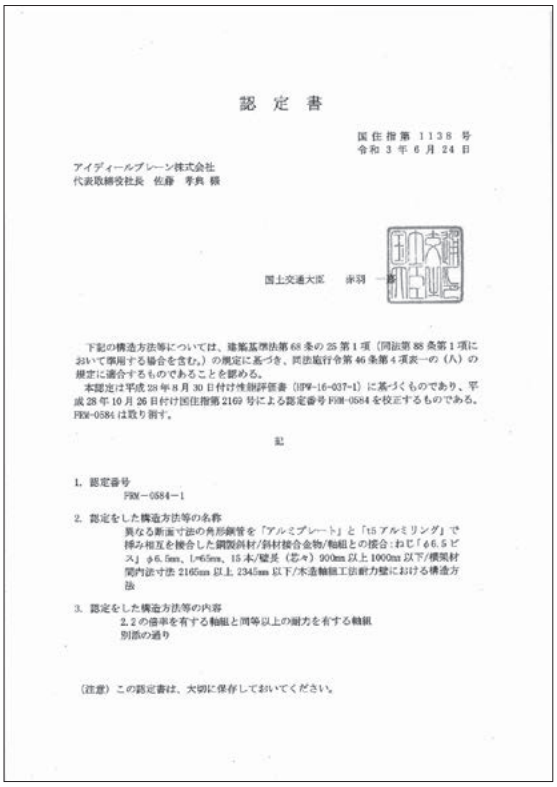
1. 認定番号
FRM－0504－1

2. 認定をした構造方法等の名称
異なる断面寸法の角形鋼管を「アルミプレート」と「t5アルミリング」で挟み相互を接合した鋼製斜材/斜材接合金物/軸組との接合：ねじ「φ6.5ビス」φ6.5mm、L=65mm、15本/壁長（芯々）900mm以上1000mm以下/横架材間内法寸法 2340mm 以上 2640mm 以下/木造軸組工法耐力壁における構造方法

3. 認定をした構造方法等の内容
2.3の倍率を有する軸組と同等以上の耐力を有する軸組
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

ミューダムRL



認 定 書

国住指第 1138 号
令和 3年 6月 24日

アイディールブレーン株式会社
代表取締役社長 佐藤 孝典 様

国土交通大臣 赤羽 一嘉

下記の構造方法等については、建築基準法第68条の25第1項（同法第88条第1項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第46条第4項表一の（八）の規定に適合するものであることを認める。
本認定は平成28年8月30日付け性能評価書（BPW-16-037-1）に基づくものであり、平成28年10月26日付け国住指第2169号による認定番号FRM-0584を校正するものである。FRM-0584は取り消す。

記

1. 認定番号
FRM－0584－1

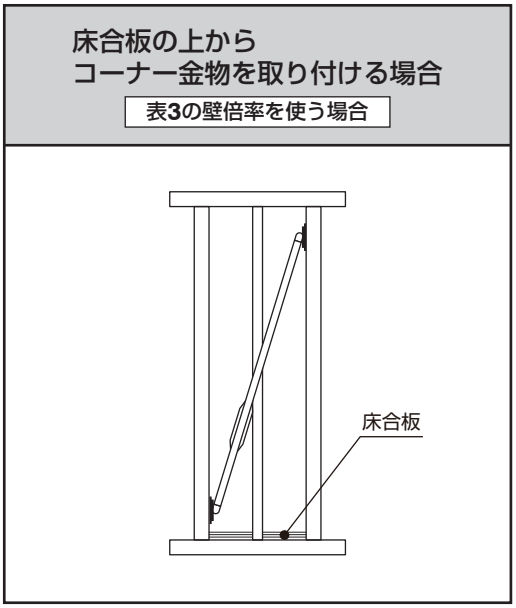
2. 認定をした構造方法等の名称
異なる断面寸法の角形鋼管を「アルミプレート」と「t5アルミリング」で挟み相互を接合した鋼製斜材/斜材接合金物/軸組との接合：ねじ「φ6.5ビス」φ6.5mm、L=65mm、15本/壁長（芯々）900mm以上1000mm以下/横架材間内法寸法 2165mm 以上 2345mm 以下/木造軸組工法耐力壁における構造方法

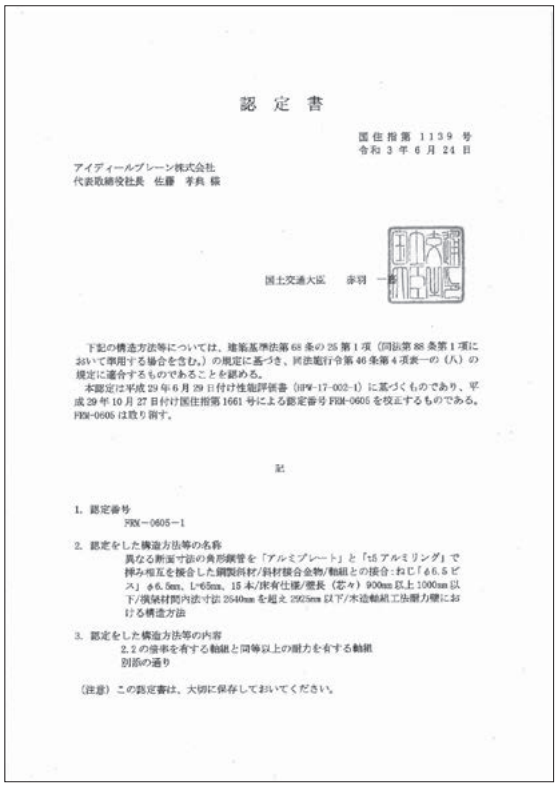
3. 認定をした構造方法等の内容
2.2の倍率を有する軸組と同等以上の耐力を有する軸組
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

ミューダムRB

■ミューダム® 認定書





認　定　書

国住指第 1139 号
令和 3 年 6 月 24 日

アイディールブレーン株式会社
代表取締役社長　佐藤　孝典 様

国土交通大臣　赤羽　一嘉

下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第 46 条第 4 項表一の（八）の規定に適合するものであることを認める。
本認定は平成 29 年 6 月 29 日付け性能評価書（HPW-17-002-1）に基づくものであり、平成 29 年 10 月 27 日付け国住指第 1661 号による認定番号 FBM-0605 を校正するものである。FBM-0605 は取り消す。

記

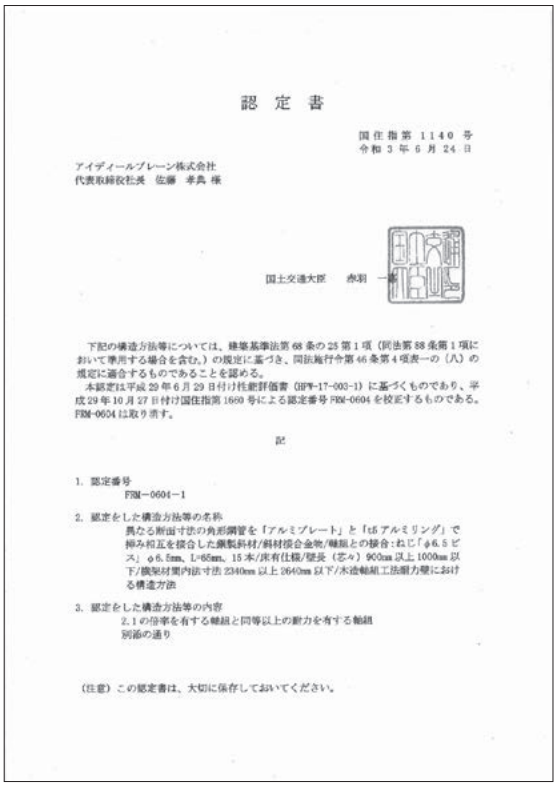
1. 認定番号
FBM－0605－1

2. 認定をした構造方法等の名称
異なる断面寸法の角形鋼管を「アルミプレート」と「t5 アルミリング」で挟み相互を接合した鋼製斜材/斜材接合金物/軸組との接合：ねじ「φ6.5 ビス」φ6.5mm、L=65mm、15 本/床有仕様/壁長（芯々）900mm 以上 1000mm 以下/横架材間内法寸法 2340mm を超え 2925mm 以下/木造軸組工法耐力壁における構造方法

3. 認定をした構造方法等の内容
2.2 の倍率を有する軸組と同等以上の耐力を有する軸組
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

ミューダムRH



認　定　書

国住指第 1140 号
令和 3 年 6 月 24 日

アイディールブレーン株式会社
代表取締役社長　佐藤　孝典 様

国土交通大臣　赤羽　一嘉

下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第 46 条第 4 項表一の（八）の規定に適合するものであることを認める。
本認定は平成 29 年 6 月 29 日付け性能評価書（HPW-17-003-1）に基づくものであり、平成 29 年 10 月 27 日付け国住指第 1660 号による認定番号 FBM-0604 を校正するものである。FBM-0604 は取り消す。

記

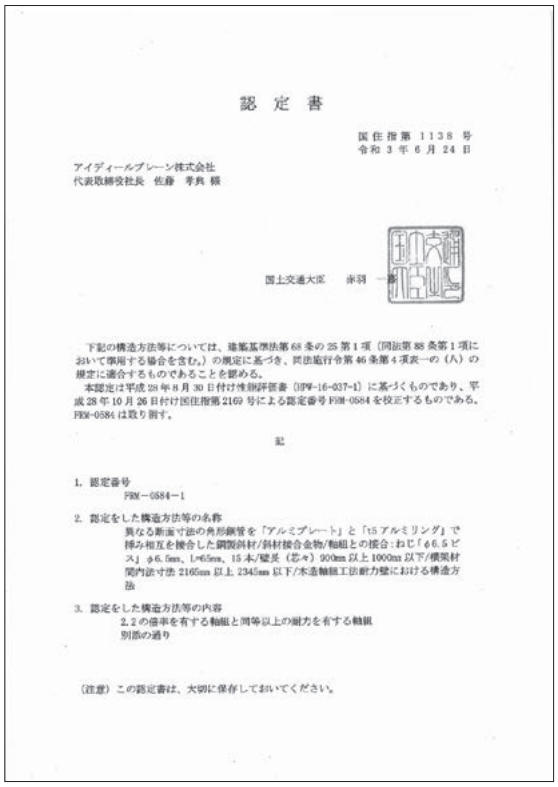
1. 認定番号
FBM－0604－1

2. 認定をした構造方法等の名称
異なる断面寸法の角形鋼管を「アルミプレート」と「t5 アルミリング」で挟み相互を接合した鋼製斜材/斜材接合金物/軸組との接合：ねじ「φ6.5 ビス」φ6.5mm、L=65mm、15 本/床有仕様/壁長（芯々）900mm 以上 1000mm 以下/横架材間内法寸法 2340mm 以上 2640mm 以下/木造軸組工法耐力壁における構造方法

3. 認定をした構造方法等の内容
2.1 の倍率を有する軸組と同等以上の耐力を有する軸組
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

ミューダムRL



認　定　書

国住指第 1138 号
令和 3 年 6 月 24 日

アイディールブレーン株式会社
代表取締役社長　佐藤　孝典 様

国土交通大臣　赤羽　一嘉

下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第 46 条第 4 項表一の（八）の規定に適合するものであることを認める。
本認定は平成 28 年 8 月 30 日付け性能評価書（HPW-16-037-1）に基づくものであり、平成 28 年 10 月 26 日付け国住指第 2169 号による認定番号 FBM-0584 を校正するものである。FBM-0584 は取り消す。

記

1. 認定番号
FBM－0584－1

2. 認定をした構造方法等の名称
異なる断面寸法の角形鋼管を「アルミプレート」と「t5 アルミリング」で挟み相互を接合した鋼製斜材/斜材接合金物/軸組との接合：ねじ「φ6.5 ビス」φ6.5mm、L=65mm、15 本/壁長（芯々）900mm 以上 1000mm 以下/横架材間内法寸法 2165mm 以上 2345mm 以下/木造軸組工法耐力壁における構造方法

3. 認定をした構造方法等の内容
2.2 の倍率を有する軸組と同等以上の耐力を有する軸組
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

ミューダムRB

MEMO

MEMO

Ideal Brain 自然の“力”を科学する
アイディールブレーン株式会社

ミューダム 検索

不許複製

2022.11.01